

(2) 周囲の人たちへの病名開示

Q. 次の人たちにあなたが HIV 陽性であることを知らせていますか
知らせている場合、おおよそ何人くらいに知らせていますか

関係性別、病名開示

		知らせている	知らせていない	そもそも、その関係の人がいない	関係者がいるか不明だが、知らせていない	小計	無回答	合計
家族・パートナー	親	n 363 % 33.3	453 41.5	128 11.7	147 13.5	1091 100.0	9	1100
	きょうだい	n 311 % 28.6	522 48.0	107 9.8	148 13.6	1088 100.0	12	1100
	夫・妻	n 146 % 13.5	100 9.3	658 61.0	174 16.1	1078 100.0	22	1100
	パートナー	n 303 % 28.1	104 9.7	478 44.4	192 17.8	1077 100.0	23	1100
	元の夫・妻・パートナー	n 205 % 19.1	153 14.2	502 46.7	214 19.9	1074 100.0	26	1100
	子ども	n 44 % 4.1	151 14.0	702 65.1	182 16.9	1079 100.0	21	1100
	その他の親戚	n 94 % 8.6	513 47.1	265 24.3	218 20.0	1090 100.0	10	1100
	友人・知人	面識のある、HIV 陽性者	n 414 % 37.9	169 15.5	386 35.4	122 11.2	1091 100.0	9
面識のある、その他知人	n 457 % 41.9	405 37.1	129 11.8	100 9.2	1091 100.0	9	1100	
ネット上の、HIV 陽性者	n 113 % 10.4	230 21.1	589 54.0	159 14.6	1091 100.0	9	1100	
ネット上の、その他知人	n 31 % 2.8	390 35.7	506 46.4	164 15.0	1091 100.0	9	1100	
仕事関係	同僚・部下	n 81 % 7.4	623 57.1	229 21.0	158 14.5	1091 100.0	9	1100
	直属の上司	n 117 % 10.7	564 51.7	253 23.2	157 14.4	1091 100.0	9	1100
	雇用主・役員などの管理職	n 91 % 8.3	588 53.9	251 23.0	161 14.8	1091 100.0	9	1100
	人事担当	n 63 % 5.8	589 54.0	279 25.6	160 14.7	1091 100.0	9	1100
	産業医・社内診療所医師	n 38 % 3.5	545 50.0	346 31.7	162 14.8	1091 100.0	9	1100
	その他	その他の関係の人	n 24 % 2.8	349 40.3	335 38.7	158 18.2	866 100.0	234

この病名開示の質問は、「知らせている」「知らせていない」「そもそも、その関係の人がいない」の3択であったが、回答状況から判断して、その関係性の人がいるか否かは分からないが、病名を伝えている相手はいないことが明らかでない場合、「関係者がいるか不明だが、知らせていない」として再集計した。例えば、親が生存しているか否かは分からないが、いずれにしても病名は伝えていない場合がこれに該当する。

関係性別、病名を知らせている人数

		1人	2人	3~4人	5~9人	10~29人	30人以上	小計	非該当	無回答 (主問)	無回答 (人数)	合計
家族・ パートナー	親	n 142 % 39.3	215 59.6	4 1.1				361 100.0	728	9	2	1100
	きょうだい	n 204 % 66.0	73 23.6	27 8.7	5 1.6			309 100.0	777	12	2	1100
	夫・妻	n 145 % 100.0						145 100.0	932	22	1	1100
	パートナー	n 293 % 97.3	5 1.7	3 1.0				301 100.0	774	23	2	1100
	元の夫・妻・ パートナー	n 123 % 60.6	40 19.7	32 15.8	8 3.9			203 100.0	869	26	2	1100
	子ども	n 21 % 47.7	18 40.9	4 9.1	1 2.3			44 100.0	1035	21		1100
	その他の親戚	n 42 % 44.7	23 24.5	10 10.6	12 12.8	7 7.4		94 100.0	995	10	1	1100
友人・ 知人	面識のある、 HIV 陽性者	n 142 % 35.3	77 19.2	60 14.9	54 13.4	56 13.9	13 3.2	402 100.0	677	9	12	1100
	面識のある、 その他知人	n 122 % 27.1	100 22.2	109 24.2	69 15.3	43 9.6	7 1.6	450 100.0	634	9	7	1100
	ネット上の、 HIV 陽性者	n 28 % 27.2	13 12.6	12 11.7	17 16.5	23 22.3	10 9.7	103 100.0	978	9	10	1100
	ネット上の、 その他知人	n 6 % 23.1	3 11.5	2 7.7	4 15.4	8 30.8	3 11.5	26 100.0	1060	9	5	1100
仕事関係	同僚・部下	n 35 % 44.3	11 13.9	20 25.3	6 7.6	4 5.1	3 3.8	79 100.0	1010	9	2	1100
	直属の上司	n 75 % 64.7	26 22.4	11 9.5	3 2.6	1 0.9		116 100.0	973	9	2	1100
	雇用主・ 役員等の管理職	n 44 % 50.6	23 26.4	10 11.5	9 10.3	1 1.1		87 100.0	1000	9	4	1100
	人事担当者	n 39 % 63.9	15 24.6	3 4.9	4 6.6			61 100.0	1027	9	3	1100
	産業医・ 社内診療所医師	n 27 % 71.1	8 21.1	2 5.3	1 2.6			38 100.0	1053	9		1100
その他	n 12 % 50.0	3 12.5	4 16.7	2 8.3	2 8.3	1 4.2	24 100.0	842	234		1100	

(3) HIV 開示しての就学・就労の相談先

Q.HIV 陽性であることを伝えて、就学や就労、就職について相談した先を教えてください
(複数回答)

	n	%
友人	194	18.6
インターネット上の友人	26	2.5
パートナー・家族	218	20.9
医師	252	24.1
看護師・コーディネーター	237	22.7
医療相談員・ソーシャルワーカー	174	16.7
心理カウンセラー	104	10.0
保健所・保健センター	14	1.3
福祉事務所・市町村福祉担当	42	4.0
ハローワーク・職安	108	10.3
障害者職業センター	13	1.2
障害者対象の就職あっせん会社	26	2.5
ボランティア・患者支援団体	31	3.0
その他	10	1.0
誰にも相談していない	461	44.1
全体	1045	
無回答	55	
合計	1100	

「医師」「看護師・コーディネータ」「パートナー・家族」の順だが、誰にも相談していない人が 44.1% と最も多い。
ハローワークは 10.3%、障害者職業センターは 1.2%。

(4) 主治医からの就労アドバイス

Q.HIV の主治医からは、あなたが働くことについて何とされていますか

	n	%
とくに制限なく、働くことをすすめられている	545	50.6
時間や仕事内容を制限して働くように言われている	73	6.8
働かない方がよいと言われている	9	0.8
とくに何も言われていない	451	41.8
小計	1078	100.0
無回答	22	
合計	1100	

50.6% の人は「とくに制限なく働くことを勧められている」としている。「時間や仕事内容を制限するよう言われている」は 6.8%、「働かない方がよい」は 0.8%。

(5) 将来の就労意向

Q. 将来の生活で、あなたは働くことについてどのようにお考えですか

	n	%
とくに制限しないで、働いていきたい	631	58.4
健康状態に合わせた制限や調整をして、働いていきたい	375	34.7
できれば働きたくない・働くつもりはない	75	6.9
小計	1081	100.0
無回答	19	
合計	1100	

58.4% の人は「制限なく働いていきたい」としている。34.7% が健康状態に合わせた制限や調整をして働きたいとしている。

(6) 将来の生活設計

Q. ご自身の将来の生活設計について、何年くらい先のことまで考えていますか

	n	%
1 年未満	96	8.8
1 年～5 年未満	302	27.7
5 年～10 年未満	241	22.1
10 年～20 年未満	156	14.3
20 年以上先	110	10.1
考えたことがない	184	16.9
小計	1089	100.0
無回答	11	
合計	1100	

「1 年以上 5 年未満」という直近の将来までのこととした人が 27.7% と最も多いが、10 年、20 年先の長期的な生活設計を考えている人も少なくない。

(7) 病気による制約感

Q. 病気や障害をもって生活する上で、ふだん制約を受けたり、自分で制約していると感じることがありますか

		かなり 制約あり	少し 制約あり	ほとんど 制約はない	まったく 制約はない	小計	無回答	合計
生活習慣（食事・喫煙・飲酒など）	n	74	331	265	407	1077	23	1100
	%	6.9	30.7	24.6	37.8	100.0		
外出や行動の範囲	n	50	199	296	527	1072	28	1100
	%	4.7	18.6	27.6	49.2	100.0		
現在の働き方や学校生活	n	71	198	287	477	1033	67	1100
	%	6.9	19.2	27.8	46.2	100.0		
将来の働き方や進路、職業選択	n	140	283	246	376	1045	55	1100
	%	13.4	27.1	23.5	36.0	100.0		
家族や親戚との関係	n	131	228	277	428	1064	36	1100
	%	12.3	21.4	26.0	40.2	100.0		
友人との関係	n	90	215	324	433	1062	38	1100
	%	8.5	20.2	30.5	40.8	100.0		
恋人との関係や出会い	n	355	266	154	245	1020	80	1100
	%	34.8	26.1	15.1	24.0	100.0		
性生活	n	563	288	84	116	1051	49	1100
	%	53.6	27.4	8.0	11.0	100.0		
結婚すること	n	545	80	60	275	960	140	1100
	%	56.8	8.3	6.3	28.6	100.0		
子を持つこと	n	620	64	35	246	965	135	1100
	%	64.2	6.6	3.6	25.5	100.0		

最も制約感（かなり+少し制約あり）が強かったのは性生活 81.0%、
次いで子を持つこと 70.9%、結婚 65.1%、恋人との関係や出会い 60.9%、
将来の働き方や進路・職業選択 40.5%、生活習慣 37.6%。
家族や親戚との関係も 33.7% が制約ありとしている
全体に、日々の生活よりも、人間関係や人生設計に関わることへの制約感の方が高い。

(8) HIV 告知以降の生活意識変化

Q.HIV 陽性とわかって以降、あなたの生活やお気持ちにはどのような変化がありましたか

		そう思う	まあ そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	小計	無回答	合計
日々の生活を 大切にするようになった	n	285	387	253	155	1080	20	1100
	%	26.4	35.8	23.4	14.4	100.0		
人間関係が広がった	n	70	105	398	501	1074	26	1100
	%	6.5	9.8	37.1	46.6	100.0		
精神的に強くなった	n	172	245	336	324	1077	23	1100
	%	16.0	22.7	31.2	30.1	100.0		
健康と生活のバランスを 意識するようになった	n	281	460	209	140	1090	10	1100
	%	25.8	42.2	19.2	12.8	100.0		

HIV 陽性とわかって以降の変化として、「健康と生活のバランスを意識するようになった」と思う（そう思う+まあそう思う）人が 68.0%、「日々の生活を大切にすようになった」が 62.2%、「精神的に強くなった」は 38.7%、「人間関係が広がった」とした人は 16.3%。

(9) HIV による差別回避行動

Q.HIV 陽性とわかって以降この数年内の生活で、次のことをしたり感じたりしたことがありますか

		ある	ない	小計	無回答	合計
HIV が理由で不本意に 仕事をやめた	n	101	974	1075	25	1100
	%	9.4	90.6	100.0		
知人に会うことのない 病院を受診した	n	205	871	1076	24	1100
	%	19.1	80.9	100.0		
すすめられたが、 障害者手帳の申請をしなかった	n	39	1029	1068	32	1100
	%	3.7	96.3	100.0		
病名を隠すような 言い訳を考えた	n	779	300	1079	21	1100
	%	72.2	27.8	100.0		
とくに病気をもっていない かのようにふるまった	n	781	301	1082	18	1100
	%	72.2	27.8	100.0		

「病名を隠すような言い訳を考えた」「病気をもっていないようにふるまった」が 72.2% と多い。「知人に会うことのない病院を受診した」人も 19.1%、「HIV が理由で不本意に仕事をやめた」人も 9.4%

(10) 差別経験

Q. 最近の生活で、HIV 陽性者であることで不利な状態におかれたり、これは差別的な対応や待遇ではないかと感じた経験がありますか

	n	%
よくある	39	3.6
時々ある	126	11.7
あまりない	466	43.1
まったくない	450	41.6
小計	1081	100.0
無回答	19	
合計	1100	

「ある」（よく+時々）は、15.3%。職場や地域での病名開示と合わせて検討する必要がある。

7. 就労について

(1) 就労の有無

Q. 先月末の1週間に、収入をとまなう就労をしましたか（自営の手伝いや内職も含む）

	n	%
主に就労	793	72.3
家事などのかたわら就労	23	2.1
通学のかたわら就労	4	0.4
休んでいたか休職中	21	1.9
就労していない	256	23.3
小計	1097	100.0
無回答	3	
合計	1100	

「主に就労」している人は72.3%、「就労していない」人は23.3%。

8. 就労の状況

(1) 1ヶ月の就労日数

Q. 先月1ヶ月間に就労した日数を教えてください（仕事を休んでいた人は0）

	n	%
休職中	16	1.9
20日未満	128	15.5
20～23日	483	58.6
24～27日	164	19.9
28日以上	33	4.0
小計	824	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	17	
合計	1100	

就労している人の82.5%は月20日以上働いている。

(2) 1週間の就労日数と時間

Q. 先月末の1週間に就労した日数と時間数を教えてください（仕事を休んでいた人は0）

	n	%
0日	20	2.4
1日	4	0.5
2日	8	1.0
3日	23	2.8
4日	44	5.3
5日	512	62.1
6日	179	21.7
7日	34	4.1
小計	824	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	17	
合計	1100	

就労している人の88.0%は週5日以上働いている。

	n	%
休職中	21	2.8
週1～14時間	14	1.9
週15～29時間	52	7.0
週30～34時間	46	6.2
週35～42時間	286	38.3
週43～48時間	115	15.4
週49～59時間	119	15.9
週60時間以上	94	12.6
小計	747	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答	94	
無回答（主問）	3	
合計	1100	

就労している人の82.2%は週35時間以上働いている。週60時間以上の長時間労働者も12.6%。

(3) 健康問題による休暇・休業

Q. この1年間に、通院や入院、健康上の理由で仕事を休んだ日数を教えてください

有給休暇

	n	%
いいえ	504	62.2
はい	306	37.8
小計	810	100.0
非該当 (非就労)	256	
無回答 (主問)	3	
無回答	31	
合計	1100	

健康管理や健康状態を理由に有給休暇をとった人は、就労者のうち37.8%。取得者のうち78.0%は10日以下。

有給休暇日数

	n	%
1～5日	141	46.2
6～10日	97	31.8
11～15日	36	11.8
16～20日	22	7.2
21日以上	9	3.0
小計	305	100.0
非該当 (非就労)	256	
非該当 (Q7_3)	504	
無回答 (主問)	3	
無回答 (Q7_3)	31	
無回答	1	
合計	1100	

欠勤

	n	%
いいえ	669	82.6
はい	141	17.4
小計	810	100.0
非該当 (非就労)	256	
無回答 (主問)	3	
無回答	31	
合計	1100	

健康管理や健康状態を理由に欠勤した人は、就労者のうち17.4%。欠勤した人のうち77.5%は10日以下。

欠勤日数

	n	%
1～5日	67	48.6
6～10日	40	29.0
11～15日	8	5.8
16～20日	3	2.2
21日以上	20	14.5
小計	138	100.0
非該当 (非就労)	256	
非該当 (Q7_3)	669	
無回答 (主問)	3	
無回答 (Q7_3)	31	
無回答	3	
合計	1100	

傷病休暇

	n	%
いいえ	756	93.3
はい	54	6.7
小計	810	100.0
非該当 (非就労)	256	
無回答 (主問)	3	
無回答	31	
合計	1100	

健康管理や健康状態を理由に傷病休暇をとった人は、就労者のうち6.7%。取得者のうち54.9%は10日以下。21日以上は33.3%。

傷病休暇日数

	n	%
1～5日	18	35.3
6～10日	10	19.6
11～15日	4	7.8
16～20日	2	3.9
21日以上	17	33.3
小計	51	100.0
非該当 (非就労)	256	
非該当 (Q7_3)	756	
無回答 (主問)	3	
無回答 (Q7_3)	31	
無回答	3	
合計	1100	

有給制度がない		
	n	%
いいえ	737	91.0
はい	73	9.0
小計	810	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	31	
合計	1100	

有給休暇制度がない人も 9.0%。

通院や健康上の理由では休んでいない		
	n	%
いいえ	483	59.6
はい	327	40.4
小計	810	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	31	
合計	1100	

就労者の 40.4% は、この 1 年間に通入院や健康上の理由で仕事を 1 日も休んでいない。

(4) 就労収入

Q. この 1 年間の、あなたのすべての仕事からの収入（税込）は、どのくらいでしたか

	n	%
なし（0円）	7	0.9
100万円未満	42	5.1
100万円～	124	15.1
200万円～	150	18.2
300万円～	162	19.7
400万円～	111	13.5
500万円～	120	14.6
700万円～	62	7.5
1000万円～	33	4.0
1500万円以上	12	1.5
小計	823	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	18	
合計	1100	

就労している人の、就労による年収は 300 万円以上 400 万円未満が 19.7%、200 万円以上 300 万円未満が 18.2% と多い。

(5) 雇用形態

Q. あなたの雇用形態はどれですか
（休職中の方は復職前のこと）

	n	%
自営業（個人 / 家族経営）	117	14.0
事業主（従業員を雇用）	24	2.9
家族従業員	9	1.1
公務員（常勤）	40	4.8
企業・団体の役員	22	2.6
企業・団体の正社員	393	47.1
契約社員	67	8.0
嘱託職員	14	1.7
パート・アルバイト	111	13.3
派遣社員	26	3.1
内職	1	0.1
その他	10	1.2
小計	834	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	7	
合計	1100	

企業の正社員が 47.1% と多く、自営業 14.0%、パート・アルバイトが 13.3%。

(6) 職種

Q. あなたの職種は何ですか

	n	%
専門・技術職	269	32.3
管理職	83	10.0
事務職	144	17.3
販売職	58	7.0
サービス職	194	23.3
保安職	4	0.5
農林漁業	4	0.5
生産工程	27	3.2
輸送・機械運転	10	1.2
建設・採掘	6	0.7
運搬・清掃・包装等	20	2.4
その他	14	1.7
小計	833	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	8	
合計	1100	

専門技術職 32.3%、サービス職 23.3%、事務職 17.3% など、ホワイトカラーが多く、労務作業的な職種が少ない。

(7) 勤務先の企業規模

Q. 勤務先（会社や団体全体、自営業）の従業員数は何人くらいですか

	n	%
1人（あなたのみ）	61	7.3
2～4人	82	9.9
5～9人	67	8.1
10～29人	97	11.7
30～99人	111	13.4
100～499人	154	18.5
500～999人	69	8.3
1000人以上	190	22.9
小計	831	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	10	
合計	1100	

勤務先の従業員規模は、1人から1000人以上の大規模企業まで幅広い。

(8) 勤務先の業種

Q. 勤務先（会社や団体全体、自営業）の業種は何ですか

	n	%
農・林・漁	8	1.0
建設	30	3.6
製造	86	10.4
電気・ガス・水道	8	1.0
情報通信	60	7.2
運輸・郵便	47	5.7
卸売・小売	100	12.1
金融・保険	15	1.8
不動産・物品賃貸	16	1.9
宿泊・飲食	68	8.2
医療・福祉	116	14.0
生活サービス・娯楽	50	6.0
学術研究・専門・技術	47	5.7
教育・学習支援	31	3.7
その他サービス	108	13.0
公務	23	2.8
その他	16	1.9
小計	829	100.0
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	12	
合計	1100	

(9) 職場でプライバシー漏洩が不安な事項

Q. 伝えていない人にまで、HIVを知られる不安を感じることはありますか（複数回答）

漏洩不安	n	%
医療費明細書の通知	363	44.5
医療費のレセプト （医療機関からの請求書）	252	30.9
社内診療所・産業医	120	14.7
付加給付金の還付	83	10.2
健康保険組合から会社 への情報	387	47.5
障害者手帳を利用した 医療費助成	292	35.8
年金や税金控除などの 制度利用	246	30.2
HIV陽性を知っている 社員の情報管理	111	13.6
健康診断	281	34.5
どれも不安を感じない	168	20.6
全体	815	
非該当（非就労）	256	
無回答（主問）	3	
無回答	26	
合計	1100	

職場で病名漏洩の不安を感じるのは、「健康保険組合から会社への情報」47.5%、「医療費明細書の通知」44.5%が多い。「健康診断」も34.5%。示した9項目いずれも不安を感じない人は20.6%で、79.4%の人がいずれかに不安を感じている。

勤務先の業種は多様であるが、最も多いのは「医療・福祉」14.0%、次いで「卸売・小売り」12.1%、「宿泊・飲食」8.2%など、全体にサービス産業が多い。

(10) 仕事・職場の評価

Q. 主な仕事での働き方や職場について、次のことをどのくらい感じますか

		とても 感じる	少し 感じる	あまり 感じない	まったく 感じない	小計	無回答 (主問)	非該当 (非就労)	無回答	合計
身体的、体力的なきつさ	n	108	307	259	149	823	3	256	18	1100
	%	13.1	37.3	31.5	18.1	100.0				
服薬のしにくさ	n	42	190	295	296	823	3	256	18	1100
	%	5.1	23.1	35.8	36.0	100.0				
通院のしにくさ	n	52	219	317	237	825	3	256	16	1100
	%	6.3	26.5	38.4	28.7	100.0				
職場の人間関係の良さ	n	127	222	298	174	821	3	256	20	1100
	%	15.5	27.0	36.3	21.2	100.0				
仕事のやりがいや面白さ	n	164	297	232	127	820	3	256	21	1100
	%	20.0	36.2	28.3	15.5	100.0				
全体的な働きやすさ	n	153	332	224	107	816	3	256	25	1100
	%	18.8	40.7	27.5	13.1	100.0				
できればやめて、 別の仕事に変わりたい	n	135	161	231	291	818	3	256	23	1100
	%	16.5	19.7	28.2	35.6	100.0				
HIV 感染症に対する 無理解や偏見	n	141	204	259	212	816	3	256	25	1100
	%	17.3	25.0	31.7	26.0	100.0				
性行動や性的指向 (同性愛など) に対する偏見	n	201	214	220	182	817	3	256	24	1100
	%	24.6	26.2	26.9	22.3	100.0				
病名を隠すことの 精神的負担	n	225	297	177	127	826	3	256	15	1100
	%	27.2	36.0	21.4	15.4	100.0				
知らない間に病名が 知られる不安	n	259	299	167	100	825	3	256	16	1100
	%	31.4	36.2	20.2	12.1	100.0				

職場の長所、短所について 11 項目を挙げて尋ねたところ、
「知らない間に病名が知られる不安」「病名を隠すことの精神的負担」を
感じる人が多かった。

9. 非就労の状況

(1) 非就労の理由

Q. 就労していない理由を教えてください
(複数回答)

	n	%
学生だから	6	2.4
家事や社会活動など 他にすることあるから	20	7.9
資格取得や進学準備のため	11	4.4
経済的に困らないから	27	10.7
定年退職したから	24	9.5
年齢が高いから	77	30.6
HIV 感染症による体調不良のため	53	21.0
精神的な問題のため	54	21.4
就職先が決まらないから	75	29.8
仕事をする自信がないから	67	26.6
その他	49	19.4
全体	252	
非該当 (就労)	841	
無回答 (主問)	3	
無回答	4	
合計	1100	

非就労の理由は、「年齢が高い」30.6%、「就職先が決まらない」29.8%、「仕事をする自信がない」26.6% など。

「HIV 感染症による体調不良」は21.0%。

「その他」19.4% で記載があるもののうち約半数は心身の健康問題。

(2) 就労準備状況

Q. 現在、仕事探しや自営業の準備をしていますか

	n	%
仕事を探している	94	37.8
自営業の準備をしている	17	6.8
何もしていない	138	55.4
小計	249	100.0
非該当 (就労)	841	
無回答 (主問)	3	
無回答	7	
合計	1100	

非就労者全体の44.6% (60歳未満の非就労者では57.3%) が、就職や自営など就労の準備をしている。

(3) 就労希望

Q. 現在、就労する希望がありますか

	n	%
ある	160	62.5
ない	96	37.5
小計	256	100.0
非該当 (就労)	841	
無回答 (主問)	3	
合計	1100	

非就労者全体の62.5% (60歳未満の非就労者では78.2%) が就労を希望している。

(3-1) 就労希望者の非就労期間

Q. 【就労希望者に】就労を希望しているにもかかわらず、就労していない期間はどれくらいになりますか

	n	%
1ヶ月未満	10	6.6
1ヶ月～	7	4.6
3ヶ月～	19	12.5
6ヶ月～	29	19.1
1年～	40	26.3
3年～	24	15.8
5年～	17	11.2
10年以上	6	3.9
小計	152	100.0
非該当 (就労)	841	
非該当 (Q8_3)	96	
無回答 (主問)	3	
無回答 (Q8_3)	2	
無回答	6	
合計	1100	

非就労者のうち就労希望のある人の非就労期間は、「1～3年未満」が26.3%と最も多かった。42.8%は1年未満であるが、一方で3年以上に及んでいる人も30.9%。

(4) 就労や就職活動の問題点

Q. 現在、就労や就職活動について、どのような問題点を感じていますか（複数回答）

	n	%
年齢が合わない	106	46.3
収入が合わない	32	14.0
仕事内容が合わない	56	24.5
自分に合う仕事かわからない	73	31.9
家事・育児との調整がとれない	14	6.1
通院との調整がとれない	50	21.8
体力的に働けるか不安	104	45.4
精神的に働けるか不安	81	35.4
職場でプライバシーが もれないか不安	60	26.2
相談先でプライバシーが もれないか不安	43	18.8
HIV を伝えて 就労相談できる先がない	50	21.8
病気のことをうまく説明できない	53	23.1
その他	11	4.8
とくに問題は感じない	25	10.9
全体	229	
非該当（就労）	841	
無回答（主問）	3	
無回答	27	
合計	1100	

非就労者が感じている問題点は、「年齢が合わない」46.3%、「仕事内容が合わない」24.5%といった労働条件の問題と、「体力的に不安」45.4%、「精神的に不安」35.4%、「通院との調整がとれない」21.8%といった健康問題を挙げた人が多かった。職場26.2%と相談先18.8%での「プライバシー漏洩不安」を挙げた人も多く、「病気のことをうまく説明できない」21.8%、「HIV を伝えて就労相談できる先がない」23.1%など、病名を伝えるか否か、伝える場合どう伝えるか、伝えない場合どう働くかといった、職場のプライバシーと健康の問題を挙げた人も多かった。

10. 日本のエイズ対策への評価

(1) 行政、医療、社会のエイズ対策評価

Q. 日本の HIV/ エイズ関連の対策について、どのように感じていますか

		整っている	まあ 整っている	あまり 整っていない	整って いない	小計	無回答	合計
陽性者への治療や医療体制	n	472	515	78	19	1084	16	1100
	%	43.5	47.5	7.2	1.8	100.0		
陽性者の就労や職場対策	n	56	205	546	217	1024	76	1100
	%	5.5	20.0	53.3	21.2	100.0		
陽性者が子どもをもつ 選択に対する環境	n	26	144	487	309	966	134	1100
	%	2.7	14.9	50.4	32.0	100.0		
HIV/ エイズ対策に、 陽性者の意見を反映させる体制	n	41	249	514	205	1009	91	1100
	%	4.1	24.7	50.9	20.3	100.0		
HIV 感染予防の教育や啓発	n	63	310	463	211	1047	53	1100
	%	6.0	29.6	44.2	20.2	100.0		
社会での HIV/ エイズへの 理解や偏見の解消	n	18	90	447	495	1050	50	1100
	%	1.7	8.6	42.6	47.1	100.0		
公的機関の職員の HIV/ エイズへの 理解や偏見の解消	n	28	243	454	315	1040	60	1100
	%	2.7	23.4	43.7	30.3	100.0		
学校での性的マイノリティ (同性愛など) への理解や偏見の解消	n	18	66	414	514	1012	88	1100
	%	1.8	6.5	40.9	50.8	100.0		
社会での性的マイノリティ (同性愛など) への理解や偏見の解消	n	19	68	432	516	1035	65	1100
	%	1.8	6.6	41.7	49.9	100.0		

医療への評価は高いが、一方で、学校や公的機関などでのエイズやマイノリティへの偏見対策への評価が極めて低く、9割の人が整っていない（「あまり」「整っていない」としている。

陽性者からみて「感染予防の教育や啓発」が整っていないとしている人が64.4%。

11. 薬物について

(1) 薬物使用経験の有無

Q. これまでに、ドラッグや薬物を使ったことがありますか

	N	%
ある	598	55.1
なし	487	44.9
小計	1085	100.0
無回答	15	
合計	1100	

55.1%の人がこれまでに何らかの薬物・ドラッグを使用した経験がある。

(1-1) 種類別薬物使用経験

Q. 【使ったことがある方に】 次のドラッグや薬物を、この1年間または過去に使ったご経験があるか教えて下さい

		いずれかの薬物使用経験あり			いずれの薬物も使用経験なし	小計	無回答(主問)	無回答	合計
		この1年に使った	過去に使ったことがある	該当薬物は使っていない					
脱法ドラッグ (ハーブ・リキッド・ パウダー・アロマ・ソルト)	n	52	135	409	487	1083	15	2	1100
	%a	4.8	12.5	37.8	45.0	100.0			
	%b	8.7	22.7	68.6		100.0			
ぼっき薬・ED薬 (パイアグラ・シアリス・ 威哥王・三便宝)	n	157	193	246	487	1083	15	2	1100
	%a	14.5	17.8	22.7	45.0	100.0			
	%b	26.3	32.4	41.3		100.0			
5MeO - DIPT (ゴメオ・フォクシー)	n	5	272	319	487	1083	15	2	1100
	%a	0.5	25.1	29.5	45.0	100.0			
	%b	0.8	45.6	53.5		100.0			
ラッシュ (亜硝酸アミル系・ ポッパー・RUSH)	n	108	446	42	487	1083	15	2	1100
	%a	10.0	41.2	3.9	45.0	100.0			
	%b	18.1	74.8	7.0		100.0			
ガス (エアダスター・ライターガス)	n	9	99	488	487	1083	15	2	1100
	%a	0.8	9.1	45.1	45.0	100.0			
	%b	1.5	16.6	81.9		100.0			
シンナー (有機溶剤・ボンド・ トルエン・エーテル)	n	1	27	568	487	1083	15	2	1100
	%a	0.1	2.5	52.4	45.0	100.0			
	%b	0.2	4.5	95.3		100.0			
大麻 (マリファナ・ハシッシ・ハッパ)	n	4	98	494	487	1083	15	2	1100
	%a	0.4	9.0	45.6	45.0	100.0			
	%b	0.7	16.4	82.9		100.0			
覚せい剤 (シャブ・エス・スピード・ ヒロポン)	n	25	95	476	487	1083	15	2	1100
	%a	2.3	8.8	44.0	45.0	100.0			
	%b	4.2	15.9	79.9		100.0			
MDMA (エクスタシー・X・バツ・アダム)	n	4	57	535	487	1083	15	2	1100
	%a	0.4	5.3	49.4	45.0	100.0			
	%b	0.7	9.6	89.8		100.0			
ヘロイン (モルヒネ・けし)	n	0	6	590	487	1083	15	2	1100
	%a	0.0	0.6	54.5	45.0	100.0			
	%b	0.0	1.0	99.0		100.0			
コカイン (クラック・コーク・ロック)	n	1	22	573	487	1083	15	2	1100
	%a	0.1	2.0	52.9	45.0	100.0			
	%b	0.2	3.7	96.1		100.0			
その他あれば教えて下さい	n	2	6	588	487	1083	15	2	1100
	%a	0.2	0.6	54.3	45.0	100.0			
	%b	0.3	1.0	98.7		100.0			

注) %a は、薬物使用経験のない人も含めた全体での割合 注) %b は、何らかの薬物を使用した経験のある人のうちの割合

使用経験率(この1年使用+過去使用)は、全体のうちラッシュ 51.2%、ED薬 32.3%、ゴメオ 25.6%、脱法ドラッグ 17.3%、覚せい剤 11.1%、ガス 10.0%、大麻 9.4%、MDMA 5.6%、シンナー 2.6%の順。コカイン 2.1%やヘロイン 0.6%は少ない。

この1年間の使用経験率(%a)は、ED薬 14.5%、ラッシュ 10.0%、脱法ドラッグ 4.8%、覚せい剤 2.3%。その他の薬物は1%未満とわずか。薬物使用経験が「ある」とした 596 名の方の各薬物の利用率(%)をみると、ラッシュが 93.0%と高率で、ED薬 58.7%、ゴメオ 46.5%、脱法ドラッグ 31.4%、覚せい剤 20.1%など。

注射器・針を使った薬物の使用経験

		いずれかの薬物使用経験あり			いずれの薬物も使用経験なし	小計	無回答(主問)	無回答	合計
		この1年に使った	過去に使ったことがある	該当薬物は使っていない					
注射器・注射針を使ったドラッグや薬物	n	23	74	412	487	996	15	89	1100
	%a	2.3	7.4	41.4	48.9	100.0			
	%b	4.5	14.5	80.9		100.0			

注) %aは、薬物使用経験のない人も含めた全体での割合 注) %bは、何らかの薬物を使用した経験のある人のうちの割合

注射針・注射器を使ったドラッグを使った経験のある人は全体の9.7%(%a)、薬物使用経験のある人のうちでは19.1%(%b)。

セックスの時に薬物を使った経験

		いずれかの薬物使用経験あり			いずれの薬物も使用経験なし	小計	無回答(主問)	無回答	合計
		この1年に使った	過去に使ったことがある	該当薬物は使っていない					
セックスの時にドラッグや薬物を使った経験	n	98	353	86	487	1024	15	61	1100
	%a	9.6	34.5	8.4	47.6	100.0			
	%b	18.2	65.7	16.0		100.0			

注) %aは、薬物使用経験のない人も含めた全体での割合 注) %bは、何らかの薬物を使用した経験のある人のうちの割合

セックスの時にドラッグを使った経験のある人は全体の44.0%(%a)、薬物使用経験のある人のうちでは84.0%(%b)。

(1-2) 薬物開始時期

Q. 次のドラッグや薬物をはじめて使ったのは、ご自身のHIV感染を知る前でしたか、知った後でしたか

		HIV感染を知る前	HIV感染を知った後	時期不明だが使った	使ったことはない	いずれの薬物も使用経験なし	小計	無回答(主問)	無回答	合計
	%a	44.5	3.2	4.1	3.3	44.9	100.0			
	%b	85.9	6.2	7.8			100.0			
5MeO-DIPT/大麻/覚せい剤/MDMA/ヘロイン/コカイン	n	276	44	17	260	487	597	15	1	1100
	%a	46.2	7.4	2.8	43.6	81.6	100.0			
	%b	81.9	13.1	5.0			100.0			
注射器・注射針を使ったドラッグ	n	58	41		456	487	555	15	43	1100
	%a	10.5	7.4	0.0	82.2	87.7	100.0			
	%b	58.6	41.4	0.0			100.0			

脱法ドラッグ/ラッシュなどの使用経験のある人のうち、感染判明前に始めた人が85.9%、感染判明後に始めた人が6.2%。

ゴメオ/覚せい剤/MDMAなどの使用経験のある人のうち、感染判明前に始めた人が81.9%、感染判明後に始めた人が13.1%。

注射器・注射針を使ったドラッグの使用経験のある人のうち、感染判明前に始めた人が58.6%、感染判明後に始めた人が41.4%。

(1-3) 薬物使用量のコントロール感

Q. ドラッグや薬物を使う量や回数について、ご自身でコントロール・調整できていますか

	n	%
できている	423	75.4
おおよそできている	95	16.9
あまりできていない	28	5.0
できていない	15	2.7
小計	561	100.0
非該当	487	
無回答 (主問)	15	
無回答	37	
合計	1100	

薬物使用経験のある人のうち 92.3% は、薬物の使用量や回数をコントロールできている（「できている」「おおよそできている」）と感じている。

(2) 必要な薬物の情報や相談

Q. ドラッグや薬物について、あなたが必要とおもふ情報や相談を教えてください（複数回答）

	n	%
薬物についての基礎的な情報	471	47.6
薬物をやめるための方法や支援先	233	23.5
HIV と薬物との関係について	342	34.5
友人やパートナー、家族などの薬物使用についての相談	103	10.4
とくに必要な情報や相談はない	318	32.1
その他具体的に教えてください	28	2.8
全体	990	
無回答	110	
合計	1100	

全体の 32.1% の人は、とくに必要な情報や相談はないとしている。

「薬物の基礎的な情報」47.6% の他、「HIV と薬物との関係」34.5%、「薬物をやめるための方法や支援先」23.5% を挙げた人が多かった。「友人やパートナーなどの薬物使用の相談」も 10.4% の人が挙げていた。

(3) 薬物の相談先

Q. ドラッグや薬物について話したり相談したことのある先はどれですか（複数回答）

	n	%
友人	318	33.7
パートナー・恋人・夫・妻	139	14.7
親・きょうだい・親せき	27	2.9
HIV 陽性者の知人	91	9.7
インターネット上の知人	18	1.9
ボランティア・患者支援団体	12	1.3
薬物使用者の集まり (N A, ダルクなど)	13	1.4
保健所	1	0.1
精神保健福祉センター	2	0.2
HIV 治療の医療者	65	6.9
精神科・神経内科	21	2.2
薬物専門の医療機関	10	1.1
誰にも話したり、相談したことはない	529	56.1
全体	943	
無回答	157	
合計	1100	

誰にも話したり相談したことはない人が 56.1% と多かった。主な相談先は、友人、パートナー・恋人・配偶者、HIV 陽性者の知人など、インフォーマルな関係の人であった。

HIV 治療の医療者は 6.9%。

薬物専門の医療機関や精神保健福祉センター、保健所などの専門相談機関に相談した人は極わずかであった。薬物使用者の集まり (NA, ダルク等) の利用も 1.4% と少なかった。

■ 薬物に関する自由記載 ■

「ドラッグや薬物について、あなたご自身や周囲のご経験から思うこと、参考になることがあれば教えて下さい」という質問に対する回答。

回答者の25.2% (277名) から記載があった。薬物使用経験別にみると、使用経験のある598名のうち33.9%、使用経験のない487名のうち15.0%からの記載があった。

【分類方法】

ドラッグの種類別の使用状況と、使用時期(この1年以内の使用 / 1年以上前の使用) から、下記の分類を行った。

1. 覚せい剤等の使用経験がある方 (1年以内に使用あり / なし)
2. 上記はないが、ゴメオの使用経験はある方 (1年以内に使用あり / なし)
3. 上記はないが、ラッシュや脱法ドラッグ等の使用経験はある方 (1年以内に使用あり / なし)
4. 上記はないが、ED薬の使用経験はある方 (1年以内に使用あり / 1年以内には使用なし)
5. いずれの薬物も使用経験のない方

【基本的属性】

基本的属性の表記は、年齢階級、感染経路、性別とした。性別は、「女性」と「性別その他」のみ記載し、とくに記載のない方はすべて「男性」である。

【用語】

覚せい剤等：覚せい剤、MDMA、ヘロイン、コカイン、大麻、注射針・注射器を使った薬物

ラッシュ等：ラッシュ、脱法ドラッグ、シンナー

同性：同性間の性的接触

異性：異性間の性的接触

1. 覚せい剤等 (覚せい剤、MDMA、ヘロイン、コカイン、大麻、注射針のいずれか) の使用経験がある方

(1-1) この1年以内に、覚せい剤等を使用した方

ドラッグや薬物がすべて悪いとは思わない。酒やたばこ一緒。なんでもかんでも規制するのは、かえって違法な物やわけのわからないものへ流れると思う。結局は個人のコントロールする能力だと思う。私も一度逮捕されましたが、正直覚せい剤を使うこと=犯罪と思いません (40代、同性)

人には知られたくない経験でしかないのですが、意思を強くもってやめるしかないと感じていま

す。友人に助けを求めましたが、やめられないときに友人のせいにしてしまったり逃げ道を作ってしまったと思いました。

(20代、同性)

早々にやめるべき

(30代、同性)

お金や入手先がないので続けずに済んでいる。規制も必要だが、情報の提供や、やめるための支援が充実してほしいと思う。

(40代、異性)

コントロールできていればいいと思う。
(30代、同性)

ゲイは普段の生活の中で我慢すること、ゲイであることを隠すことが多いのでセックスになると爆発する人が多いのでは？自分はドラッグにハマり、そのおかげでC型肝炎になり、最終的に捕まり、たいへんな思いをしました。数年前に国がソフト系ドラッグ（合法ドラッグ）の禁止により、手に入りやすい覚せい剤に手を出したゲイが多いと思います。国がとった手段は失敗だと思います。今までのドラッグをきちっと規制し、少しのドラッグを残すべきでした。私はもうドラッグをやめました。多くのゲイはセックスライフに我慢をしない人が多いのでドラッグの使用は減らないと思います。
(40代、同性)

気軽に相談できる人、場所、団体が不足しており、(あるかもしれないけど分からない)、また薬物を使用することによるデメリットの発信(情報)も不足している。薬物の怖さをもっともっと前面に出して目をそむけなくなるような情報提供が必要だと考える。
(50代、同性)

ドラッグ→すべてを失う
(20代、その他)

薬物使用のSEXはセーフでなく行われることが多いため、HIVへの感染率が高いと思われる。
(40代、その他)

私は薬物依存でクリニックにお世話になります(一生続くそうです)。大切なことは最初の1回に手を出さないこと(それを知る)、本人は自力で何とかしようとするので周りが気づいたら支えること。
(50代、同性)

やはりなんでも一度は経験してみたいという思いからさまざま試すが、規制が厳しく入手困難になってきていることと自分の理性も働き、全く依存することはない。
(40代、同性)

使用量さえ間違えなければ悪いものではないと思う。
(20代、同性)

薬物依存は自分でも気づかないうちに進行して、ほんの少しのきっかけでまた手を出してしまうと思う。引き金となることがわかったら、そうならないよう工夫・努力が必要。
(30代、同性)

自分はやめることができているが、タイホなどで生活が大きく変わってしまうため、手を出さないでいる方がよい。自分は今の安定した生活を守っていきたい。人生を壊したくないと考えています。
(40代、同性)

目先の快樂が将来の地獄へ落ちてしまう。やらないことが一番！！
(40代、その他)

(1-2) 1年以上前に覚せい剤等を使用したか、この1年内は覚せい剤等以外の薬物を使用した方

今の楽しさや快樂で我に戻った時の後悔が大きいと知った方がいいかも。
(20代、同性)

薬物にはまっているときには、どこに相談したらよいか分からないから、「ここは安全に相談できます」という窓口がもっと増えたらいいんじゃないかと思う。ただ本人は隠そうとしたり

問題ないとか考えるから難しいとは思うが。
(40代、その他)

最近脱法ドラッグで怖い経験をした。今でも精神的ダメージを引きずっている。もう2度としない。怖い目にあっていなければ、溺れてかえって人生おわってたと思う。脱法ドラッグを使っているひとは多そうなので、これから事故等がますます増え大きな社会問題になるのではないか。
(40代、同性)

依存性がないものについては認めて欲しい。脱法ドラッグの方よりいままで知られている薬物の方が安全だと思う。
(40代、その他)

薬物専門の医療機関が少なすぎ。さらに予約が取りにくく、最終的には心理カウンセラーのカウンセリングを通して使用をやめることができている。
(40代、同性)

こんなに簡単に手に入るようでは世も末だと思うし全体に危機感がない。
(40代、同性)

一度使い始めると辞められなくなるので、ラッシュ以外の薬物にはセックスドラッグとしても使わないようにしている。(私は体質的に、成分が残りやすいようだ) 中毒になると抑止能力が衰える気がする。
(30代、同性)

コントロールできなくなる前に支援先等に相談。
(40代、同性)

完全に断つことは困難。入手経路を断つこと、そもそも手を出さず土壌として自己評価の低さが

あると思われるため若いころからのメンタルヘルスや道德教育の強化が必要。
(20代、同性)

ラッシュはドラッグという認識がないので、現在も使用している。
(50代、同性)

ライトドラッグ(ラッシュ)を禁止薬物にしたことから、覚せい剤が異常に使用される残念な結果になった
(40代、その他)

同性愛者(ゲイ)にとって普段の日常生活(とくに仕事関係)からくるストレスの解消のため使用してしまう傾向にあるように思う。社会のゲイへの理解がもっと深まること(たとえば同性婚が認められる)でドラッグへ現実逃避しなくなると思う。
(40代、同性)

自己があれば癖にならない。何もかも忘れたいときに使ってしまう。
(20代、同性)

一時的快樂が継続になり止められない。
(40代、同性)

使用すれば、嫌なことを忘れられることができるが、根本的な解決にはならない。きちんと自身を規制するかであれば、使用してもよいと思うが、ものによっては依存してしまうため、そこは気を付けなければならないと思う。
(30代、同性)

騒ぎすぎ。
(40代、同性)

使わないに越したことはないが、厳しすぎる規制は大きな反動を生むとも思う。落とすどころ

も必要。
(40代、同性)

なくともいいもの。
(50代、同性)

面倒くさい病気にかかったものだと考えると、将来になんの希望も持てず、どうにでもなれと自暴自棄になり、ついドラッグでうさ晴らしをしたくなる。過去、ライ者が苦しんだように、この国はHIV陽性者には生きづらい！！
(60上、同性)

ハッテン場やゲイショップにエアードスターを売っている。買う人がいるから売る人がいる。売る人がいるから買う人がいる。ってのは分かるけど目的分かってて売ってるやろ。
(30代、同性)

一度しか使ったことはないですが、ネットとか見てると。また実際に会った人でも、結構使っている人、もっている人は多いんだと感じます。
(50代、同性)

(1-3) 1年以上前に覚せい剤等を使用したか、この1年内はいずれの薬物も使用していない方

現在は全く使用していませんが、今後使用することはないとは限らないと思います。やはり依存症や身体への影響を考えるに、法規制の下で使用が制限されるのは当然ですが、薬物・ドラッグすべてが悪としておかれている状況が自分の知識不足も感じつつ、どんなものか考えています。今後も引き続き研究頑張ってください。ありがとうございます。
(40代、同性)

経験したのは何十年も以前のことですが、自身の弱さもありますが、自分の置かれた環境（仲

間や友人）だと思う。普通に身の回りにあり、何も考えてなかった。今は全く目にするものもない。その環境を作らないことが大切だと思う。
(50代、同性)

自分でセーブできない人はやるべきではない（セーブできないのがドラッグであるが）。身体的健康への問題もさることながら、経済的に大変なことになると知らしめるべき。
(50代、同性)

はまる人ははまるし、はまらない人ははまらない。友人がやめられなくて困っている。
(30代、その他)

ドラッグなどは自分の意見が強ければやめれると思います。ドラッグを使ってセックスするのは気持ちいいけど、いつまでもこんなことをしちゃいけないとわかれば、自ずとやめれるんじゃないかなあ？と思います。
(30代、同性)

一度やってしまうとどん底に落ちる。
(30代、その他)

本当に一時的なものに過ぎず人生を狂わせるもの。
(30代、同性)

まだ何も知らない相手に無理やり使用して金を要求するケースもある。ドラッグに関する知識・情報がないと「どんなクスリか？」「どれだけ使用された？」等何をされたか分からずパニックになったり。もっとドラッグの知識があれば防げるのか？飲み物にまぜて飲ませたりするやつもいたり（どんな色、形、味、使う道具、症状etc）
(30代、同性)